

2024年3月15日
農林中央金庫
岡山支店

2023年度「地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」で大臣表彰を受賞

農林中央金庫（代表理事理事長 奥 和登、以下「当金庫」）は、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が公表する2023年度の「地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」に選定され、内閣府特命担当大臣（地方創生担当）の表彰を受けましたのでお知らせいたします。なお、当金庫が本表彰を受けるのは3回目です。

1 本表彰の概要

地方創生の取組みについては、金融機関等の幅広い情報・ネットワークの活用による貢献が期待されており、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局においては、各地域での取組みの参考とするため、金融機関等が地方創生に関与した「特徴的な取組事例」を公表しております。

この度、当金庫岡山支店の取組みが、2023年度の「特徴的な取組事例」に選定され、大臣表彰を受けました。

2 当金庫の取組み

（1）当金庫が目指すもの

当金庫では、「価値創造の取組み」として、世の中の社会課題や顧客等の経営課題の解決に向けて様々な取組みに挑戦しております。その解決に向けて、「当金庫が持つ機能、ネットワーク、情報、ノウハウをいかに駆使すれば課題解決できるか」を真摯に考えながら、伴走者として貢献していくことを目指しております。

そのなかでも、多様な地域関係者（JA・JF・森林組合・地場企業・行政等）と連携しながら、生産者の所得向上、農林水産業全体の課題解決・活性化に貢献し、地方創生に寄与することは、特に重要な取組みとして位置付けております。今回表彰を受けた取組みにとどまらず、引き続き当金庫は全国で地域活性化・地方創生の取組みに挑戦してまいります。

（2）今回表彰を受けた取組み「官民一体となったブルーカーボンアクションプロジェクト」

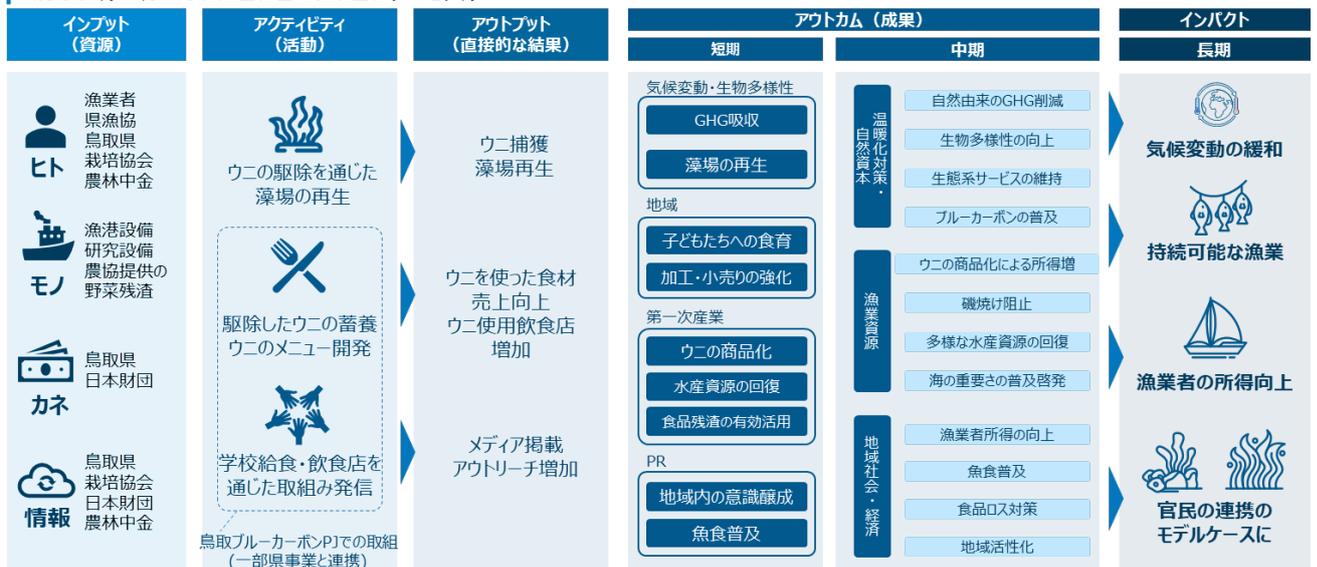
地球温暖化等によるムラサキウニ増殖を要因とした「藻場（海藻類が繁茂した沿岸域）」の消失に伴う、温室効果ガス（GHG）吸収源や生物多様性の減退といった全国的な問題に対し、鳥取県漁業協同組合・鳥取県・当金庫等が中心となり「鳥取ブルーカーボンプロジェクト」（以下「当プロジェクト」）を立ち上げました。当プロジェクトでは、日本財団「海と日本プロジェクト」の助成金を活用し、ウニの蓄養試験を行うことで、鳥取県が進める地元の野菜残渣等を活用したウニの蓄養技術開発を後押ししたほ

か、ウニを切り口としたイベントの開催、地域の方々とのウニを活用した新たなメニュー開発等も行うことで、海で起きている課題を多くの方に知ってもらい、豊かな海とその恵みを未来へ引き継いでいく取組みを実施してまいりました。

当プロジェクトは、鳥取県漁業協同組合、鳥取県、日本財団、当金庫等、多様な組織がタッグを組み、各組織の強みや経験を活かしながら取組みを進めるなかで、当金庫は主に当プロジェクトの全体調整を担ったほか、広報・イベント企画・運営等の実務にも他組織と協力して取り組むとともに、ボランティアアダイバーの一員として県が進めるウニ駆除にも積極的に参画いたしました。

【本件スキーム図】

鳥取ブルーカーボンプロジェクトのロジックモデル



以上

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 岡山支店 高橋・富田 Tel : 050-3853-2520/1893